



石井 広太郎

(飯塚病院 歯科口腔外科)

『顎関節治療における外科治療の位置づけと鑑別疾患』

<要旨>

顎関節症を診断するうえで最も重要なことは、まず類似の症候を呈する疾患を除外する必要があるという点である。特に腫脹や発熱、自発痛を生じるもの、神経脱落症状を呈するものなどは顎関節症以外の疾患を考えるべきであるが、レッドフラッグにあたる悪性腫瘍や破傷風などは常に鑑別として考えながら診療にあたる必要がある。本講演では、顎関節症と鑑別を要する疾患について、特に耳鼻科疾患との鑑別を要した症例を交えて鑑別のポイントを解説し、また、顎関節症に対する外科治療について論文的考察を行い、本邦における外科治療の位置づけについて解説致します。

<講演内容>

- I. 顎関節症の鑑別疾患
 1. 鑑別疾患
 2. 鑑別のポイント
- II. 顎関節症における外科治療の位置づけ
 1. 基本治療のエビデンス
 2. 外科治療について
 - 1) 関節腔洗浄のエビデンス
 - 2) 鏡視下剝離授動術のエビデンス
 - 3) 関節腔注入薬剤についてのエビデンス
 - 4) 開放手術のエビデンス
 3. まとめ

<専門医カリキュラム>

- ・顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる
- ・顎関節症類似の臨床症状を呈する疾患と鑑別できる
- ・外科的療法の適応症を判断できる

<略歴>

- 2003年 九州大学歯学部 卒業
2007年 九州大学大学院歯学研究院修了 博士(歯学)
九州大学病院 顔面口腔外科 医員
2008年 大隅鹿屋病院 歯科口腔外科
2010年 九州大学病院 顔面口腔外科 医員
2012年 飯塚病院 歯科口腔外科 医長
2014年 九州大学病院 顔面口腔外科 医員
2015年 九州大学病院 顔面口腔外科 助教
2021年 飯塚病院 歯科口腔外科 診療部長
2022年 飯塚病院 歯科口腔外科 部長

日本顎関節学会 暫定指導医
日本口腔外科学会 専門医・指導医
日本口腔科学会 認定医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医(歯科口腔外科)



松本 邦史

（日本大学歯学部歯科放射線学講座）

『顎関節外科処置に必要な解剖と画像検査』

<要旨>

顎関節外科処置を行う上では、適切な診断、外科処置の適応・術式だけでなく、顎関節の複雑な構造を網羅的に理解しておく必要があります。本講演では、まず、顎関節を構成する組織の解剖・画像解剖を一通りおさらいします。そして、術前に何のために、何を使って、何を評価するかを概説します。

<講演内容>

- I 顎関節の解剖
- II 画像検査概論・画像解剖
- III 顎関節外科処置のための画像診断

<専門医カリキュラム>

- ・顎口腔系の構造を説明できる
- ・顎口腔系の発生、成長・発育、加齢変化を説明できる
- ・画像検査所見を説明できる
- ・外科的療法の適応症を判断できる

<略歴>

- 2002 年 日本大学歯学部卒業
- 2006 年 日本大学大学院歯学研究科修了（歯科放射線学）・博士（歯学）
- 2008 年 日本大学歯学部助教（歯科放射線学講座）
- 2011 年 日本大学歯学部附属歯科病院 顎関節症科医局長
- 2016 年 鹿児島大学病院講師（顎顔面放射線科）
- 2019 年 日本大学歯学部助教（歯科放射線学講座）
- 2020 年 日本大学歯学部准教授（歯科放射線学講座）
- 2023 年 日本大学歯学部附属歯科病院 顎関節症科診療科長

日本歯科放射線学会 認定医・専門医・指導医

日本顎関節学会 暫定指導医・委員（学術委員会、総務委員会、病態分類委員会、研究企画委員会、若手部会）



野上 晋之介

(東北大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔再建外科学分野)

『顎関節疾患に対する顎関節洗浄療法・鏡視下手術・ 内視鏡支援下手術の適応』

<要旨>

顎関節症と鑑別すべき疾患として、先天異常・発育異常、外傷、炎症、腫瘍・腫瘍類似病変、顎関節強直症が挙げられます。これらの疾患と顎関節症とをうまく鑑別し、適切な時期に最適な治療を行うことが重要ですが、これらの疾患に対して行われている顎関節洗浄療法・顎関節鏡視下手術・内視鏡支援下手術に関する明確な判断基準はありません。

本講演では顎関節外傷および顎関節腫瘍類似病変に対して、エビデンスに基づいて行なっている顎関節洗浄療法および顎関節鏡視下手術、さらに内視鏡支援下手術についてビデオを供覧しながら、その適応について概説します。

<講演内容>

- I 顎関節症の病態と外科的療法（開放手術を除く）
- II 顎関節外傷の病態と治療
- III 顎関節腫瘍類似病変に対する顎関節鏡視下手術と内視鏡支援下手術

<専門医カリキュラム>

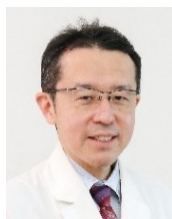
- ・顎関節症の発症メカニズムと症候、継発する病態を説明できる
- ・関節鏡検査の適応を説明できる
- ・顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる
- ・外科的療法の適応症を判断できる

<略歴>

- 2006年3月 九州歯科大学 歯学部 卒業
2006年4月 九州歯科大学 形態機能再建学分野 臨床研修医
2007年4月 奈良県立医科大学 口腔外科学講座 後期研修医
2009年4月 九州歯科大学 形態機能再建学分野 医員
2010年4月 九州歯科大学 形態機能再建学分野 助教
2013年4月 東北大学病院 歯科顎口腔外科 医員
2013年8月 東北大学大学院歯学研究科 顎顔面・口腔外科学分野 助教
2017年4月 オーストリア共和国 ザルツブルク医科大学 頭蓋顎顔面口腔外科学講座 留学
(2018年3月まで)
2020年4月 東北大学病院 歯科顎口腔外科 講師
2023年2月 東北大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔再建外科学分野 准教授

代表的所属学会：

- 日本口腔外科学会 専門医、指導医
日本顎関節学会 専門医、指導医
日本顎変形症学会 認定医
日本口腔顎顔面外傷学会 理事、評議員
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医（歯科口腔外科）



佐藤 毅

(九州歯科大学 歯学部 口腔保健学科
歯科衛生士育成ユニット)

『開口障害を主徴候とする疾患と内科との連携が必要な 疾患への外科的対応』

<要旨>

顎関節症と鑑別すべき疾患については、多くの疾患があげられます。本講演では、開口障害を訴える場合に念頭に置くべき鑑別疾患（炎症・外傷・悪性腫瘍等を除きます）の中でも、外科的治療が必要な疾患について解説します。外科的治療の中でも、顎関節開放手術を行う際の外科的到達法と口腔内からのアプローチが必要な手術に焦点をあてます。さらに、顎関節症と鑑別すべき疾患のうち、内科との連携が重要であり、かつ外科的対応が必要な疾患も解説します。

<講演内容>

- I 外科的対応が必要な開口障害を主徴とする疾患の特徴と治療
- II 内科との連携かつ外科的対応が必要な疾患の特徴と治療

<専門医カリキュラム>

- ・口腔内の診察を実施できる
- ・口腔外の診察を実施できる
- ・顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる
- ・顎関節症類似の臨床症状を呈する疾患と鑑別できる
- ・外科的療法の適応症を判断できる

<略歴>

- 1998 年 3 月 東北大学歯学部 卒業
1998 年 4 月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 歯周病学分野 入学
2002 年 3 月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 歯周病学分野 修了
2002 年 4 月 東京大学医学部附属病院 顎口腔外科歯科矯正歯科 医員
2003 年 4 月 佐藤歯科医院 常勤医
2004 年 10 月 埼玉医科大学病院 歯科・口腔外科 助手
2007 年 4 月 埼玉医科大学病院 歯科・口腔外科 助教
2010 年 10 月 埼玉医科大学病院 歯科・口腔外科 講師
2015 年 1 月 埼玉医科大学病院 歯科・口腔外科 准教授
2024 年 1 月 九州歯科大学歯学部 口腔保健学科 歯科衛生士育成ユニット 教授

所属学会：

- 日本口腔外科学会 専門医・指導医
日本顎関節学会 専門医・指導医、代議員、総務委員、編集査読副委員長
日本口腔科学会 認定医・指導医、評議員
日本歯周病学会 認定医
日本口腔ケア学会 評議員



大井 一浩

(金沢大学大学院医薬保健学総合研究科
外科系医学領域顎顔面口腔外科学分野)

『口腔機能回復治療としての咬合に配慮した 顎関節の口腔外科的対応』

<要旨>

咬合は咀嚼、構音、呼吸などの口腔機能の要として顎関節と密接に関連しており、顎関節の病的変化に伴う咬合異常は口腔機能障害の原因の一つとして挙げられます。この問題に対する口腔外科的対応としては、適切な医療面接、診察、画像検査等による顎関節、顎骨、周囲軟組織に生じる顎関節疾患の診断、疾患の治療により生じる可能性のある咬合異常に配慮した手術、疾患の病態や治療によって生じた二次的な咬合異常に対する口腔機能回復治療としての口腔外科的治療などが考慮されます。

本講演では、顎関節疾患と関連する咬合異常の問題に対して、広く口腔機能回復治療としての観点から咬合に配慮した顎関節の口腔外科的対応について、われわれの自験例も交えて成書や文献からも概説します。受講者の皆様の臨床に少しでもお役に立てれば幸いです。

<講演内容>

- I 咬合に関わる口腔外科的対応を必要とする顎関節疾患
- II 顎関節疾患に対する口腔外科的治療と咬合異常
- III 二次的な咬合異常に対する口腔機能回復治療としての口腔外科的治療

<専門医カリキュラム>

- ・口腔内外の診察を実施できる
- ・顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる
- ・外科的療法の適応症を判断できる
(顎関節外科手術、外科的矯正治療)

<略歴>

- 2000 年 3 月 北海道大学歯学部卒業
2000 年 4 月 北海道大学大学院歯学研究科口腔顎顔面外科学教室 研修医
2005 年 3 月 北海道大学大学院歯学研究科修了・博士 (歯学)
2005 年 4 月 市立砺波総合病院歯科口腔外科 医員
2007 年 4 月 北海道大学病院歯科診療センター 医員
2012 年 4 月 市立砺波総合病院歯科口腔外科 医長
2014 年 10 月 金沢大学附属病院歯科口腔外科 講師
2023 年 4 月 金沢大学附属病院歯科口腔外科 病院臨床教授 (現在に至る)

- 2016 年 5 月-2017 年 3 月 Musculoskeletal Biology, Institute of Ageing and Chronic Disease,
University of Liverpool, UK (Honorary Research Fellow)
2023 年 5 月-2023 年 10 月 Regional Maxillofacial Unit, Aintree University Hospital, UK
(Honorary Visiting Professor)

- 日本顎関節学会 専門医・指導医、代議員
日本口腔外科学会 専門医・指導医
日本顎変形症学会 認定医・指導医、評議員
American Society of TMJ Surgeons (ASTMJS) International member